

〔2番 水上雅廣 登壇〕

○2番（水上雅廣）

発言のお許しをいただきましたので、一般質問のほうをさせていただきますが、質問の前に、市から議員宛てにですね、先般令和3年から令和4年にかけてそれぞれ議員が質問などした事項、取り上げてきた事項について、あるいは意見について検討をしていただいた結果、それから対応された内容などに関する報告をいただきました。そのほかにもこれまで度々一般質問等で取り上げてきたことについても、政策として来年度の予算に反映をしていただいたなと思えるようなところも見受けられますし、一議員として地域の方々と共に市長のところもお邪魔したようなこともあります。そういったことも誠意を持って対応をいただいているということで、予算のほうも見させていただいておりますので、こういったことについては素直にありがとうございましたと感謝を申し上げたいというふうに思います。まず、それを最初に言って、質問に入らせていただきたいと思います。ただ、その中で継続・検討というのもありましたから、これについてもしつかりとご検討いただくようお願いしたいと思います。今回初めて一番最後で質問が相当ダブるし、もう何をやっていいのかなっていうことで思っていましたら、ほぼほぼ答弁もいただいたようなこともあるわけですが、通告に従って質問をさせていただきたいというふうに思います。

まず、新年度予算の財源確保ということでお伺いをいたしますが、新年度予算も新規・拡充の事業が多く計上してありますが、燃料費、電気料などの高騰の影響で、予算編成も苦慮されたのではないかと推測をいたしております。市長の予算概要説明でも、このことによる厳しい環境の中でも大きな借金をせず公債費削減が図れ、ふるさと納税の確保に努力したことで増加する経費に対応でき、大きな事業や予算の削減を行うことなく、政策的にも新たな事業を盛り込むことができた、このように述べられております。

そこで改めて、当初予算編成の中で燃料費あるいは光熱水費等への影響額、これはいかほどあったのか伺いたいと思いますし、そうした影響を踏まえて、予算編成にあたってどのように工夫をなされたのか。あるいは廃止または縮小した事業、こういったものもあると思うんですけども、そういったものがあるのかどうか伺いたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔総務部長 谷尻孝之 登壇〕

□総務部長（谷尻孝之）

それでは1点目の財源確保につきましてご答弁させていただきます。

今回の予算編成を振り返りますと、電気代や燃料代などの高騰による影響が非常に大きく、その財源の確保に非常に苦労いたしましたところがございます。今後の更なる値上がりについては不透明なことであることから、令和5年度当初予算においては、本年度の12月現計予算額を基本としつつ、なお不足する場合は補正予算にて対応する方針としました。金額で申し上げますと、電気料は当初予算比較で1億6,000万円の増、燃料費は500万円の増となりました。これに対して、公債費の削減効果で生まれた実質負担余裕分1.6億円のうち0.7億円を充て、残りを財政調整基金からの繰入金で賄うよう予算措置いたしました。

また、国では地方公共団体における公共施設の光熱費高騰を踏まえて、総額700億円を普通交付税において算定することとしており、当市におきましてはおおよそ1,000万円程度の上乗せ交付が期待されるところです。

しかし、4月以降、北陸電力管内の大幅な電力料金値上げが見込まれており、円安の是正などによる輸入液化天然ガスの値下がりも期待はされますが、元の水準に戻ることは見込めず、国からの支援等も期待できない中で、令和5年度の財政運営は執行段階で節減に努めつつ、補正予算も最小限にとどめるなど、慎重に行っていかなければならないと考えているところでございます。

また、廃止や縮小した事業につきましては、「入るを量りて出ずるを制す」の財政運営方針のもと、全体的な財源確保の観点から、57件、約3億2,000万円の事業をやむを得ず見送ることといたしました。この多くは施設修繕や機器導入の延期などが中心で、できる限り市民生活に影響が出ない事業といたしました。このほかにも、各種施策において補助等の対象人数を絞ったり、事業の実施回数を削減するなどして、細かいところでの予算査定も行ったところです。

〔総務部長 谷尻孝之 着席〕

○2番（水上雅廣）

厳しいだろうなということは想定しておりましたから、そういったことかなと。ちょっと意外といえば意外ですけど、補正予算にまで言及されて令和5年度補正もちょっと厳しいかなと今部長おっしゃったので、そうですかと思うんですね。昨日も剰余金の話がありましたけど、それ見込みで、もう既に予算もそれを見込んだ上で立てていらっしゃると思うんですけど、そういったものを上振れするような可能性があるなら、しっかりと補正で対応いただけるようなことにしてほしいと思います。

もう一つ言うと、剰余金についてはいろいろお考えはあると思いますけど、さっき誰かのときにもありましたけど役所というのは減価償却とか、償却についてはないじゃないですか。施設とかそういったものに対する次の手当とかというのはあまり考えてないというか、そこのところに至っていないようなところもあるんですけど。私は剰余金の一部というのはそうしたものに充てていく、投資の部分に充てていくような考え方も一つあってもいいのかなというようなことも思うんです。そういったことを含めて、その辺を見計らって補正も、電気料の高騰分がこの先どのぐらいいくのかということもあるんですけど、しっかりとやっていただきたいというふうに思います。

それともう1点、次のときに伺えばと思うんですが、予算の中で、次の質問でもちょっと触れますけど、子供子育てというのが叫ばれていますけど、飛騨市って結構私は相当手厚くというか初期の段階から新しいことにも踏まえてやっているんじゃないかなという気はしているんです。全体的に捉えてですね、ホームページとか見るんですけど、ワンクリックで入っていけないんです。幾つも幾つも押して行って、並列されているんなものが出てくるような感じで。できればですね、分かれば結構なんですけど妊娠から出産、子育てに関する予算について、施策ですけれども、分かる範囲で結構なんですけど、昨日も若干触れられたところもありますけど、分かる範囲で結構ですので答弁をいただきたいなというふうに思いますけど、議長よろしいですか。

◎議長（澤史朗）

次の質問ではないのですね。

○2番（水上雅廣）

今、総務部長、財政課長いらっしゃるので。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□財政課長（上畑浩司）

子育て支援というのは飛騨市非常にたくさん展開しております、国・県を除いて市で中心にやっている事業を申し上げますと、まず、不妊治療、不育治療、こういったことの助成、それからその交通費助成というのも行っております。妊娠しますと、今度は妊婦の健診の助成も行っております。また、妊婦の歯科検診も行っております。さらに令和5年度からは、「My助産師制度」と申しまして妊娠初期から出産、子育てまで含めて、助産師が寄り添っていく施策も新しく始めるところでございます。その後、出産を迎えますと、聴覚検査、これは異常がないかという新生児の聴覚検査を行っておりますし、ブックスタート事業といたしまして、3か月児と3歳児に絵本をプレゼントしまして、それを通じた親子の愛情を育むというような事業もやっております。また、お母さん向けではですね、産後うつと言われる症状の方が少なからずみえるものですから、そういった方への産後ケア事業も行っております。また、産婦健診、それからその助成券も行っておりますし、そのほかで言いますと母乳相談とか育児相談こういったことも施策としてやっております。また、赤ちゃん防災事業といたしまして、いざというときの赤ちゃんとお母さんがどうすればいいかというようなことの研修会を通じて、いろんな情報提供なんかも行っております。

それから保育園に入りますと、今度は入園準備経費の購入支援も行っております。それから、ニーズの高い未満児保育の受入れですね、こちらも保育士の待遇改善を含めて保育士の確保に努めております。それから、急にお子さんが熱を出して保育園に入れないというときの病児保育というものもやっておりますし、冠婚葬祭とかで休日どうしてもお預けしたいというときの休日保育ということもやっております。それから、その後で言いますと、保育園で朝お子さんが休まれるときに保育園に休むという連絡を入れるんですけど、どうしてもその時間体が集中して電話が繋がらないというような苦情を受けまして、今回そういった対応をするシステム改善の導入を新たに予算計上をしております。

それから学校へ入りますと、ランドセルを買ったり、体操服を買ったりという、入学準備購入支援をしております。それから放課後児童クラブで小さいお子さんの夕方とか、夏休みのお預かりをするという事業も展開しております。

また、中学生に上がるときにも学生服とかの購入支援をしておりますし、高校生に至っては、医療費を無償にするというのも市の単独施策として展開をしております。

このように様々なステージごとにですね、今言った事業以外にもたくさん施策を打っております、いろいろ現場の声を拾いながら改善する点、それからニーズの高いものについては前向きに予算化をしているということで事業を実施しているということでございます。

○2番（水上雅廣）

突然でしたが、ありがとうございます。これだけ今、そらんじられるだけでもこれだけあるんですよ。その上で、この後またやっていくんですけど、市長、昨日も給食費のところでは言及されましたけど、こういったことって、もう1回市長の考え方、要は給付とかそういったものを

どういうときにどういうふうにするのが一番いいのか、どこで言おうかなと思っていたんですが、今の国のやり方って、批判するとかそういうことじゃなくて、何か大きいところだけ見ていて、地方の小さいところはあまり分からずに何でもかんでもやっているみたいな、そんなイメージもないこともないと思っているんです。市長にちょっとそのあたりを感想として聞いて、次の質問に行きたいと思うのでいいですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市長（都竹淳也）

昨日、籠山議員と議論させていただいたときにも申し上げたんですけど、先ほど財政課長がいろいろ施策の説明をしましたが、それぞれ結構考えながらやってきていてですね、予算を投じるときに、ちょっとでも困りごともちろんですし、子供の場合は特にこういうことがよかれと思ってやるっていうものもかなり含まれているので、そういったものをプラスしながらやっていくということなんですけど、どうもですね、最近国の施策もそうですし、県の施策もそうですし、他の自治体のもですね、子育て先進地と言われるところの施策もそうなんですけど、お金を配るって話になっているの、私本当にちょっとこれでいいのかという思いをすごく持っているんです。しかもとっても乱暴に決まるんですね。国の今回の給付金、お金もらって嫌な人っていませんので、良いつて言うに決まっているんですけど、とっても乱暴な決まり方をしているというのが、もう私すごくそこに対して行政の劣化を招いているということを思っていて、あれだけ巨額の予算を簡単にほとんど議論なしに、しかも何に誰がどう困っているのかの話がなく決まっていくという、この風潮に非常に危惧を覚えています。

先ほども申し上げていますが、我々本当に愚直なぐらい、一つ一つの施策、かなり時間費やして議論していますし、その途中では駄目出しをしてもう1回やり直してと言って返すようなことも何度もあって、その都度、誰が対象者でどう困っているのか調べてやっているっていうことをですね、こんなに子供の数の少ない飛騨市でやっているのに、もっと大きなところでですね、それができないというのは非常に問題だと思っています。また、そういうところをもてはやす風潮もあって、何か給付をたくさんするとですね、そこが子育ての先進地であるかのごとく言われると。これもおかしいと思いますし、それから全然違うところで人口が増えているところで打つとですね、その施策を打ったから人口が増えたんだ、移住者が増えたんだ、子供が増えたんだ、ほとんど検証されてないんですね。それにもかかわらずそれがもてはやされる。そこに新聞で取り上げられる、全国から視察に行くんです。そうすると、どこどこではって「出羽守」と言われる人たちがたくさん現れて、それを各地で言う。そうすると首長も困り果てるということがある。やっぱりこの風潮ってもっときちんと見直さなくてはいけないということを思うので、我々としては、そこはきちんと今までどおり、個々小さい施策でも議論して積み上げていくという姿勢だけには変えないようにしたいと思いますし、その積み上げの結果、こうして多くの事業があるわけですので、こういったものもトータルできちんと、ホームページが見にくいという話も今いただきましたけども、きちんと市民の皆さんに伝えられるように工夫をしていきたいと思っています。

○2番（水上雅廣）

そういったことも思いながら、次の質問へ移らせていただきます。

少子化と子育てで、特に若い女性の流出ですとか、給食費の関係、子供の温泉フリーパスみたいなことをお尋ねしたいというふうに思いますけれども、今ほどもお話にありましたけれども令和5年度に向けて多くの自治体が少子化対策ですとか子育て支援といったようなことを一つの目玉として新年度予算を編成しているように新聞、資料とかいろんなところで見受けます。ネットなんかではそんなことばかりが取り上げられたこともあって、そういうふうにも思ったりもするのかもしれませんが。加えて岐阜県でも、子育て世代への経済的支援として、第2子以降、出産祝い金の支給ですとか、高等学校の就学準備支援補助金といったようなものを盛り込みながら、出会いから子育てまで切れ目のない支援を掲げているということでありました。

飛騨市の新年度予算を見る限り、取り立てて予算計上してあるというようには見えませんと書いていますけれども、今お答えいただいたようなことで、しっかりとやっていただいておりますということでもあります。それが、見えるか見えないかは見せ方、見方の問題だと思うので、そうした辺りも工夫をいただければありがたいかなと思いますけれども。

子供への給付金とか未満児の保育料の無償化、あるいは給食費の無償化など、こうしたことというのはある程度、中長期に続けなければならないことでもありますし、その財源を捻出するために体力勝負のようなことは、そういった施策について私は慎重であるべきだというふうに思っております。また財源に余裕のある団体だけが、そうしたことに取り組んで、自治体間の格差みたいなことがますます生まれてしまうんじゃないか、財源に余裕のある自治体に若い人たちが集中してしまう。そういった可能性も指摘される場所でもありますし、そういったことがあっていいのかどうか。

ただ、一方で、今ほど言われたようにそういう施策が、Uターンとか、新たな住まいを求める人たちに、そういった自治体の子育て支援みたいなものが選択のウエートを占めるということも片方でやっぱりあるのかなというふうに思ったりもします。

そうしたことを含めて伺いたいと思いますけれども、若い女性の流出に関してですけれども、女性の純減数、多いのは大卒の22歳が抜きん出て多いと言われておりますし、短大・専門学校を卒業される20代ぐらい、それから高校卒業される18歳というふうに言われております。飛騨市においてもそういった傾向は見て取れるのかなというふうに思います。地元から将来のこうした母親候補という表現としてどうなのかなということを思いますけれども、そういう方を失っていくということについては地元の男性の未婚化を加速させたり、結果として少子化をまた加速させる。あるいは女性の希望に即した働く場の確保やキャリアアップへの支援、こういったものが必要なんだと。こうしたことがいろんなところで言われております。女性が働きたいと思うような魅力ある働く場、例えば研究機関ですとか、新商品開発、顧客開拓、こうしたことができるような企業であったり、仕事内容が一般事務や商品企画、あるいはマーケティングなどの企業内における女性の働く場を増やしていく、こうしたことが望まれ、働き方においても、長時間労働の是正、あるいはワークライフバランスの推進であったり、女性の職域管理職の登用、非正規社員の待遇改善、こういったことが必要なんだというようなことを耳にします。

飛騨市における若い女性の確保流出対策、そういったことについてはどのようにお考えでいらっしゃるのか、お伺いをしたいと思います。

給食費の無償化なんですけれども、これについては先日の答弁でもありました。通告しておりま

すからお尋ねをしますけれども、「物価高騰を受けて全国約1,600市町村の約3割が2022年度に給食費を無償化」「政府の臨時交付金や自主財源で無償化」「無償化しない自治体でも半額、あるいは第2子第3子以降分の中学校分だけ無償化」、こうした自治体が増えているというような記事を見受けました。そこで改めてお伺いをさせていただきますが、給食費の無償化については検討はされませんか。

それから3点目、子供の温浴施設のフリーパス券の交付ですけれども、これ身近なところでいろいろと、お年寄りのフリーパス券のこともあったりして、子供にも何とかこういったことをしてもらえないかなということがありました。子供が行けば親もいきますし、施設によって例えば保育園児は無償にしてあるところも既にあつたりしますけれども、やっぱり小・中学校あたりまで同伴で行かれると思いますし、何となしにそういう親同士のコミュニティーのところもつくってもらえるんじゃないかなというようなことも思うわけです。そうしたことを含めて、子供たちの温浴施設のフリーパス券、一考していただけないでしょうかということでお尋ねをいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畑上あづさ）

それでは、私からは1点目の若い女性の流出についてお答えします。

若い女性が飛騨市を選び、住み続けたい場所となるためには、若い女性が働きたいと思うクリエイティブな職場の存在、また男女の性別役割分業を固定化せず、柔軟な家族の形を受け入れる意識改革を進める必要があると考えております。

このうち、若い女性が働きたいと思う職場につきましては試行錯誤を重ねつつも、最も重視してきたところですが、近年、市が行ってきた事業をアウトソーシングすることで企業を創出する取組が、女性の働く場の創出においても功を奏した事例が出てきており、手応えを感じております。

例えば、当市のふるさと納税の業務を受託することをきっかけに古川町内で起業された「ヒダカラ」は、飛騨市だけでなく、高山市や白川村のふるさと納税の業務も受注して成長し、その経験を踏まえて地域商社としても発展しており、創業3年目で20代から30代の女性を中心に約20名を雇用する会社となっております。ほかにも、飛騨市学園構想や飛騨市民カレッジなど教育分野のパートナーである「E d o」、まちづくり支援の「n o d e」など、これらはいずれも飛騨地域には数少なかつた若い女性が働きたいと思うクリエイティブな企業であり、それぞれが若い女性の雇用を生み出しております。また、女性の創業や自営支援については、起業家奨励金制度を活用して令和3～4年度で8件中6件の女性経営者の創業が飛騨市内でありました。

企業そして地域の方の意識改革につきましては、十六総合研究所へ委託して開催しております「市内企業の魅力情報発信事業」の中で、多様性、ジェンダーギャップ等をテーマに、企業の担当者や親世代へ遡求するセミナーの遡及を継続して取り組んでおります。

また、市内の「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」は4社となつておりまして、女性が働きやすい環境づくりのため、認定への機運を高めるセミナーを令和5年度には開催する予定でおります。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔教育委員会事務局長 野村賢一 登壇〕

□教育委員会事務局長（野村賢一）

私からは2点目の給食費の無償化についてお答えします。

昨日、籠山議員の質問にも市長からお答えしましたとおり、給食費の無償化を行う予定はございませんということです。理由につきましては、昨日の答弁のとおりでございますので、私からは県内における無償化の現状についてお話しさせていただきます。

県内 42 自治体のうち令和4年度に無償化を実施したのは4自治体で、令和5年度も継続して無償化されます。また、令和4年度に3か月から7か月の期間を定め、限定的に無償化を実施したのは10自治体で、このうち令和5年度も限定的無償化を予定しておりますのは2自治体ですが、これは第3子以降の給食費を無償化するという限定の仕方であります。

このほか飛騨地区でございますと、高山市では給食費の3分の1、下呂市では中学生に限り2分の1を公費で負担されているところでございます。

本市におきましては、令和5年度も物価高騰対策といたしまして、物価上昇分について給食費を助成する対策を行いますし、引き続きふるさと納税を財源として食後のデザートを提供する「ありがとう給食」と、地場産の食材を使用する「ふるさと学校給食」により給食の魅力アップを行い、他の自治体との差別化を図ってまいりたいと考えております。

〔教育委員会事務局長 野村賢一 着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔市民福祉部長 藤井弘史 登壇〕

□市民福祉部長（藤井弘史）

私からは3点目の子供への温浴施設フリーパス券の交付についてお答えをいたします。

昨日は、籠山議員より「湯ったりフリーパス」の継続についてのご質問をいただきましたが、この制度は令和4年度限りの原油価格・物価高騰による緊急対策として実施しているものであり、継続実施につきましては、慎重に検討する必要があるとご答弁いたしました。

水上議員からのご提案は、その子供版の施策と受け止めています。確かに子供が温浴施設に行けば、親も同伴するでしょうし、子育て世代の交流機会の拡充にもつながると思いますが、高齢者世帯の場合は年金生活者が多く、その生活支援のために緊急的に実施したものであり、一般の子供世帯については、より慎重な検討が必要と考えます。

他方で、子供たちが自ら様々な活動に使えて、活動範囲を広げるとともに、家族の支援につながるために、「子供版いきいき券」のようなものを導入できないかというアイデアを別途に検討し始めております。財源の確保も必要ですが、ふるさと納税においては子供たちの支援には多くの寄附が集まる傾向があることから、これを財源とし、その範囲で実施することも考えられます。

いずれにしても、まだ本格的には議論しておらず、来年度において保護者や子育て支援関係者の方々とも意見交換を重ねるとともに、改めて財源の確保や制度設計なども含めて研究してまい

ります。

〔市民福祉部長 藤井弘史 着席〕

○2番（水上雅廣）

最後のほうから。子供のいきいき券ということでお話をいただきました。そこまでの発想は私になかったけれども、そういったことが本当にできていくのなら、本当に何にも負けない子育て支援みたいな感じになるかもしれない、そんな感じを今、受けたんですけど。例えば、どのあたりまで、何に使えるとか、何か試案みたいなものが、今の時点でお考えというのはあるのでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市長（都竹淳也）

先ほど部長から答弁ありましたように、本格的に議論していませんのでイメージは固めてないんですが、現金配るとか何かを減らすって一律ではなくて、いきいき券のように対象を絞って、使ってもらいやすいところに自由に使える。また、いろんな活動の幅を広げられる、地域活動みたいなことも関わってくるんですが、そうしたもので何かイメージできないかということです。

といいますのは、これ答弁の中にもありましたけども、ふるさと納税がですね、非常に大きな寄附をいただいているんですが、あれは寄附をちゃんと目的を指定していただいて、それに沿って使うわけですが、子供の関係の項目というのは非常にお金が集まりやすい傾向があるんですね。そして全国の方々からそういった子供支援、飛騨市の子供たちを全国の皆さんに支援していただくという中で、用途を考えていく中でそういったこともあるのではないかとということでございまして、真水負担ということになるとなかなか一般財源では難しい点もありますけれども、そうしたふるさと納税財源を使うという意味においては、いいアイデアではないかと思っております。

そうすると、ふるさと納税のピーク時の前、つまり秋より前に大まかなイメージができるというかなんかと思っておりますので、当初予算の議論より前に、少し形を考えていければいいかなと思っております。

いずれにしてもまだ具体のイメージはございませんので、アイデアベースですので、これから考えていきたいということでございます。

○2番（水上雅廣）

ぜひご検討いただきたいと思います。

それから女性の働く場のことでですけど、先ほど市役所の業務をアウトソーシングされるということで、まず初めに2,000万円弱でしたかね、額にして10事業ぐらい市がアウトソーシングしますよと言っているのが資料の中にある。そうした時に、一体市内のどんな企業がそれを受け入れることができるのかなんかというのはちょっとイメージがなかったものですから。部長とかの中にこういう事業はこんな会社にみたいなのがあればお聞かせいただきたい。また、新たにそういう企業として、これをきっかけに女性の起業者を増やしていきたいとか、そういったところまで思ってみえるのか。そのあたりもお聞かせいただければありがたいです。

□財政課長（上畑浩司）

令和5年度においてアウトソーシングは、議員ご指摘のとおり約2,000万円予算を上程させて

いただいております。中身を見ますと、例えば地籍調査業務があるんですけど、こういったものはやはり地元のコンサル会社とか、そういった分野でのお願いになると思いますし、公共建築物の法定報告という業務もあるんですが、これはやっぱり建築関係の資格がないとできませんので、こういう様々な事業の、発注先というのはおのずと絞られてくるものですから、幅広くどなたでも業務を受けるといえるものは、ほとんどあんまりないような状況でございます。項目としましては全部で10項目ありまして、2,000万円というような予算になっております。

○2番（水上雅廣）

何かそういうことで女性が活躍できるような場がもっともっと、先ほどご紹介があった「ヒダカラ」「E d o」「n o d e」、あの人たちの姿を見ていますとやっぱり生き生きしていますし、特に社員の方も増えてきているように見て取れますし、職場としてもそういう雰囲気の中で、いい感じで、もっとこう幅が広がるかなみたいな感想もあるので、だからそういったところへ出していくのがいいのかどうかは別にして、雇用が増やしていけるように、ああいうところも育てていくことも1つの方法ではないかなということも思ったりもするものですからお聞きしました。そういったことも含めてアウトソーシングのあり方、そういう事業のあり方を考えてもらえればなというふうに思います。

それともう1つ、世間一般で言われているのは、要はさっき部長の答弁にもありましたけど、私たちがのような男性のその考え方が、女性の働くことに対してどうよっていうところがあるんだろうなということは思うんですけども、例えば男性の育児休業の取得の関係ですとか、それからこれは企業によってそういう制度を整えてもらわなきゃいけないということもあると思うんですけど、そうしたことに関して市のほうで何かしらの支援であったり、後押しをするようなことって何か考えていらっしゃいますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□財政課長（上畑浩司）

現在行っております補助制度だとか、それから今ほど申し上げたようなセミナーの開催以外にまた、新しい何かというところでは、まだ考えているところはございませんが、そういったセミナーにしる補助制度にしる、ちゃんと存在を市民の皆さんに知っていただいて、企業の経営者の方にももちろん知っていただいて、できる限り知っていただいてできる限り参加していただいたり、該当する事項があるのであればしっかり利用していただいて、良い職場環境を整えていただくことをしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

○2番（水上雅廣）

その辺りはどう取り組んでいただければいいか、私もしっかりと申し上げることはできませんけど、やっぱり女性の活躍推進というのが一つ大事だなと。私は、女性の働く姿のところに男性は絶対ありますからと思っています。そういった意味でも取り組んでいただきたい。

もう一つ、そういったことの見本になるのは市役所じゃないかなと思うんです。一番環境としていいんだろうと思います。今の市役所の中ではそういった育児休暇であったり男性の育児休暇取得、そういった面ではどういう感じになっていますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□総務部長（谷尻孝之）

手元に細かい数字持っていないんですけども、記憶だけで失礼いたします。総務部です、今年度たしか2名の男性が育児休暇を取りました。職員とも話をしていたんですけど、我々の60歳手前の世代とですね、やはり20代後半から30代の男性とはやっぱり大きく子育て環境が違っておまして、意識としてですね、やはり出産のときはしっかりそういうサポートをするという意識が非常に強いなということを考えておりますので、今後も総務部としてもですね、職員に対してそういうものを積極的に取っていただくように推進したいと考えております。

○2番（水上雅廣）

本当に市役所が率先してそういう姿を見せてもらいたいと思います。

もう1つ、市長にお伺いしたいのですが、管理職の関係で、今もお二方ひな壇のほうにいらっしやいます。もっと登用されてもどうですか、部長というか課長でもいらっしやらないですよ。そうしたところへの女性の活躍の場、キャリアアップというのはやっていただいたほうが、原因もあるのかもしれませんが、私はそう思っています。資質として相当すばらしい子がたくさんいるわけですから、そういった人たちが下を教育、育成していくということもやっていかなければ、なかなかそのジェンダーギャップというか、そういうところの空間が埋まっていけないような気もしなくもないです。そういったことで市長、どのようなお考えなのかちょっと伺いをいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市長（都竹淳也）

実はもっと女性管理職を登用したいんです。それは市長になったときから考えてきまして。1つ実はいろんなネックがありまして、過去の昇格の試験制度、これが実は最初すごく大きな影響を及ぼしていました。受けていないんです。それで、受けてないと承認させられないという問題があって、これ、私もともと試験制度は反対なものですから、時間をかけてですね、今、事実上試験制度は廃止しています。それで人物本位で登用するという形に持ってきたんですが、その間でですね、例えば課長になるには課長補佐になっていないといけない、係長になっていないといけない、こういうことがあるので、そこが踏めていないということが1つ問題になっていることがあります。もう1つは意識の問題があってですね、昇任を希望しないってはっきり言っている女性職員が実は結構中間に多いんです。40代とか50歳前後とかですね、意外と多くて、そこが次を登用できない理由になっているという事情もあります。ただ、40代の前半から下ですと、やはりちょうど私市長になった頃に30代半ばぐらいだった職員なんですが、この辺りはもう、結構いろんなところに登用しながらやってきて経験も積んでくれていますので、恐らくこの世代が課長補佐から課長になるところまで来ると女性管理職の数が飛躍的に増えてくるというふうに思いますが、しばらくの間ですね、やはりなかなか登用できる人数がちょっと足りないという問題が今一番の課題になっています。できるだけその間に、女性、若くてもいろんなところで活躍して、いろんなところを踏ませて、いろんな可能性を見出しておくということが、多分、

10年後、20年後の飛騨市役所にプラスになると思っていますので、今、特に女性職員については、いろんなところを経験してもらえるように、そういった人事異動の中で配置も考えながらやっているということです。

○2番（水上雅廣）

男性が駄目だって言っているわけじゃないですから、勘違いのないようにお願いします。そういう、ある程度数のバランスみたいのは絶対必要ですし、どっちかという市長が言われたように、性別役割みたいところを暗につくってしまっていた部分もするのであれば、そういったところはなるべくもうならしてしまって、どこでも活躍してもらえるようなそういう環境はぜひつくっていただきたいなというふうに思います。

そうしたら時間も過ぎますから、3つ目に行きたいと思います。宮川保育園の整備の関係ですけども、こうした厳しい財政状況の中で、宮川保育園の整備に関する予算を計上をいただきました。これまで園舎の修繕などについて地元要望も行っていただいたわけですけども、大きな事業費がかかるといったことや、ほかの要素も含めて検討していただいたところでなかなか厳しい状況だというふうに伺っておりました。今回の関係予算が上程されたということで安堵をしているんですけども、その整備についてお尋ねをしたいと思います。

そもそも今回の整備計画で何名くらいの園児の数を想定していらっしゃるのでしょうか。何人くらいまで受入れが可能な施設になるのでしょうかということ。それから、今のこの計画、保育園が小学校に併設するということになっています。これによって子供たちの環境というのはどんなふうに変わっていくのか、どうなるのでしょうかということですね。「園児と小学生が同じ校舎内で集団生活を行う環境を整える。」こういうふうに言われておりますが、保育園の運営、それから学校の運営、それぞれの運営と、保・小一体となった運営をどのようになっていくのか。こうしたことによって何を期待できるのかというようなところをお聞きしたいと思います。1つ言われておるには、移住を考える際にやっぱり教育というのは1つの大きな要素だということも言われる中で、例えばですね、良いか悪いか、これは私なりに書いてしまったのですが、大きな集団にあまりなじめない子供たちの受け皿になれるような学校であったり、あるいは個の能力が、どんどんと伸ばされるような、そうした学校であったり、今の整備に合わせて保・小あるんですけども、そんなところまで広がっていければなというようなことは期待しております。そうしたこと含めて、整備と運営どのようにお考えになっているのか、お伺いをしたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市民福祉部長 藤井弘史 登壇〕

□市民福祉部長（藤井弘史）

宮川保育園の整備についてお答えをいたします。宮川町在住で、今後、入園対象となる子供を持つ保護者に聞き取りを行ったところ、令和7年度に6名中4名が入園を希望されています。施設の詳細な設計はこれからですが、認可保育所の面積基準に照らした場合、受入れ人数は最大28名と見込んでいます。

小学校内への移転は、飛騨市学園構想の重要な取り組みと位置付ける保・小連携の推進につながる教育的効果や、市有施設全体のスリム化を図ることができる管理的、財政的効果が期待され

ます。

さらに、併設により保・小連携の面で期待される効果として、1点目は遊びを通した学びから、学習が中心になる環境変化がスムーズに行われること。2点目に保育園児と小学校児童が交わることで、規律ある態度や人と関わる力が養われること。3点目に学校体験や交流が盛んになることで、情操教育につながること。4点目に小学校教職員と保育士との連携を通じ、入学に際して子供の様子を容易につなぐことができるなどが期待されます。

小規模な地域である宮川地区の特性を踏まえ、地域と連携・協力をしながら、子供たちの健やかな成長と自立を育むことができる子育て環境づくりを念頭に準備してまいります。特色のある保育園・小学校となることで、移住される方や、小規模ならではの保育や教育を希望される方のニーズにも対応したいと考えております。

〔市民福祉部長 藤井弘史 着席〕

○2番（水上雅廣）

せっかくそういう決断をいただきましたから、本当によりよい保育園、よりよい小学校であってほしいし、ああいう小さいところですから、やっぱりその子供たちの声であったり、姿であったり、地域元気であったり、市民の元気になるというふうには私はずっと思っていますから。そういった意味でも、また大人たちにしっかりと協力をしていただけるように。例を言えば、河合町なんか私ずっと羨ましいなと思っているんですけども、あそこも子供たちへ対する取組、地域の取組というのは本当にすばらしいなと思っずずっと見させていただいておりますけど、宮川町も何とかああいう形で、やってないわけじゃないですけども、本当に1つの塊として見ていただけるように頑張っていきたい。そういったことでの支援もいただきたいなと思いますので、教育長も含めてよろしくお願いをしたいというふうに思います。

今、施設の規模として28名まで可能だということで、そうなんですかという話なんですけど、本当にそこまでの人数があそこで、保育士さんというのは、どの辺りに。部屋というのはきっちり確保できるんですか。事務所というか保育士のスペースというのはあの中で。図面を見た段階では、それが分からなかったものですから。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（藤井弘史）

ご質問ではですね、何人まで受入れできるんでしょうかというご質問でございましたので、面積要件、保育園につきましては1人当たり1.98平米の面積を取りなさいという面積要件がございますので、全体の面積から1.98を割るとですね、最大面積としては28人までいけますということで、28人という数字を出させていただきました。

ちなみにですね、現在の定員は20名という形になっております。ただ、この新しい園舎につきましての定員は、ちょっとこれから検討というところでございます。

保育士の事務室ですね、これは以前に山之村保育園は休園になっておりますけど、山之村小中学校の中に一緒に入っていたときにもですね、同じフロアの中に机を置いて、そこで業務に当たっていたということでございまして、その前例を踏襲したいなということは思っているところでございます。

○2番（水上雅廣）

何とか良い建物、欲を言ったら小学校のほうの改修もですね、本当にやって欲しいんです。それについては、今回は言及しませんが、何とかお願いのレベルでお聞きいただきたいと。お願いというか懇願です。

では最後の質問に移りたいと思います。毎回この時期、恒例のようでも申し訳ないんですけども、国道360号の整備について、1点お伺いしたいと思います。今回、猪谷交差点ということでお尋ねさせていただきますけれども、昨年の8月に国道360号の種蔵打保バイパス塩屋～成手間が開通し、交通量の増加と時間の短縮を地元の方々だけでなく多くの人々が感じていただいていると思います。飛騨警察署それから古川土木事務所、市も含めて交通の安全対策にご尽力をいただいておりますが、残り2.9キロメートルの幅員狭小や線形不良区間においては安全面での不安がより大きくなっているということも事実であります。一刻も早く安心・安全で、災害に強く、地域の活力を創出するネットワークの整備を推進していただきたいと思います。

全線開通すれば富山市がさらに近くなり、当地域住民の通勤・通学、買い物などの利便性はさらに向上し、移住や定住、若者の働く場の確保に少なからずというか、大きな影響を与えるものと思います。また、飛騨地域から富山空港や北陸新幹線、富山駅へのアクセス道路としても役割が非常に今まで以上に大きくなるというふうに思います。

こうした岐阜県側の働きかけについて、動きについてはこれまで幾度となく市にもお尋ねをし、県にもお尋ねをしておりますけれども、とにかく一刻も早く、機械の音が響くように、関係機関、関係各位にお願いを申し上げたいというふうに思います。

今回は岐阜県側ではなく、他県になって申し訳ありませんけれども、国道360号線の猪谷交差点についてお聞きをしたいと思います。種蔵打保バイパス全線開通、それによって交通量の増加がこれ見込まれます。それから、飛騨市内の国道41号においては、今なお雨量規制区間が存在しますし、冬季の数河峠というのは、今なお難所だろうというふうに思っております。そうしたことも含めて、国道41号を補完する国道360号線への依存度というのは高くなるんだろうと思っています。

そういう中で、国道360号改修促進期成同盟会というのがございますし、市長もその会長として国道360号全体にわたって要望活動を一生懸命していただいておりますし、働きかけをしていただいておりますので、あえてこの猪谷交差点状況についてお尋ねをさせていただきたいというふうに思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔基盤整備部長 森英樹 登壇〕

□基盤整備部長（森英樹）

それでは、国道360号猪谷交差点の改修についてお答えいたします。

国道360号種蔵打保バイパスの整備につきましては、例年、富山市、高山市、白川村、飛騨市の4市村で組織する国道360号改修促進期成同盟会として岐阜県県土整備部へ要望活動を行っており、令和4年度は11月8日に実施しました。その際には国道41号と交差する猪谷交差点についても併せて要望しており、岐阜県県土整備部からは、「岐阜県として富山県に対し要望があった

旨をしっかりと伝え、両県の連携を密にして進めてまいります。」とのことでした。

議員ご指摘のとおり、富山県境から国道41号との交差点までは富山県の整備区間であり、国道交差点部分については国土交通省富山河川国道事務所との調整も必要となります。現時点で富山県側から岐阜県に対し具体的な整備計画の情報は入っていないと伺っており、今後どのように要望活動を進めていくべきか、富山市を含めた近隣自治体、各種団体とさらに連携を図ってまいります。

〔基盤整備部長 森英樹 着席〕

○2番（水上雅廣）

他県に関係することですから、軽々にいろんなことが言えないということがありますからね、分かるんです。ただ、前段でも申し上げましたけれども、このバイパスの開通によって交通量が格段に増える、時間も大幅に短縮されると思うんです。今、宮川振興事務所からこの交差点まで行くのに大体25分くらいだと思います、先般も走りましたけど。これがですね、1号トンネルが抜ければさらに短縮される。

言ったように、富山市というのは本当に通勤圏、ひよっとしたら通学であったり、買い物なんか今でもそうなんですけど、そういったエリアとして本当に飛騨市が間近になるという、そういう感覚だというふうに思うんです。そうしたことを思うと、ここについても積極的に進めていただきたいというか、要望活動とかですね、積極的にやっていただきたいと思うんです。

そこで1点、市長にも当然思いはずっと聞いていますからね、なのでちょっと部長にお願いをしたいと思います。私たちはもう市長、市長と言って、市長に頼らざるを得ないときも、それはもう市長って頼みますけど、ただ、やっぱりそういった中で、お膳立てって言いますかね、例えば国道360号の猪谷交差点も含めて、これまでも幾つかのこと言いましたよね、大無雁トンネルの構想みたいな話であったり、国道471号で言えば市長もおっしゃいましたけども道路改良じゃなくて河川改修も要望していくんだみたいなことも含めてですよ、圏域の構想をちゃんと持って、市長が提案したり要望したりできるような、そういうものを事務方としてきちんと整えてほしい。そういう思いをもっと持ってほしいと思う。今持ってないと言いません。でも、部長もよくわかってみえるんですよ、どれだけその工事に期間がかかるか。今までずっと実務されていらっしゃるし。

なので、そういったことを、部長の下の子たちにもきっちり教えてあげながら、指導してあげながら、こうしたものがどうしたら早期に完成していただけるのかっていうことを少し苦心していただいて、市長としっかりと働いていただきたいなというふうに要望をさせていただきたいと思いますが、どうですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

国道360号ですね、やはり毎年要望活動をしておりますけども、やはりいろんな方の協力があり、いろんな方の思いを背負って要望活動もしているつもりでおりますし、これから若い職員がどんどん出世していく中でもですね、こういった要望活動が本当に大事なことなんだっていうことをしっかりと伝えていく必要はあると思っております。

今回の富山側の交差点につきましても、市としてはですね、あくまでも岐阜県との連携の中で要望活動しておりますけども、岐阜県が富山県に対してしっかり連携を図ってもらえるように働きかけをしていくのが市の役割だと思っておりますので、そういった面ではですね、そういった姿勢をしっかり後輩に見せていくということは大事な事かなというふうに思っております。

議員言われるようにですね、道路整備は本当に長い月日かかるものですし、次の世代につなげていくためのものを基盤整備部の中でもしっかりとバトンタッチしていけるように、頑張りたいと思っております。

○2番（水上雅廣）

ちょっと酷な言い方で申し訳なかったですけども、一生懸命頑張っていたいただきたいと思いき、そういった思いだけある、きちんとつなげていただきたい。思いじゃなくて実現に向けて頑張っていたいただきたいというふうに思います。

時間がないのであれですが、市長は富山県のほうといろいろと交流もされたり、仲良くしておられるじゃないですか。それと国土交通省の関係なんかも北陸地方整備局の関係なんかもあるし、そういった面でも県と県のことあるし、市と市のことあることも分かるんです。そういったところの難しさもあると思いますけれども、何とかその辺もクリアしていただきながら、また地元もしっかりと応援をさせていただきますし協力もします。お願いします。

〔2番 水上雅廣 着席〕

◎議長（澤史朗）

以上で、2番、水上議員の一般質問を終わります。